

11/26
朝日

女川再稼働「地元」は3者だけか

主婦

(宮城県 74)

東日本大震災で被災した東北電力の女川原発2号機について、宮城県の村井嘉浩知事が、再稼働の前提となる「地元同意」を表明した。村井知事は「地元」を「立地自治体である女川町、石巻市、県」としているが、納得できない。放射能には町境も市境もないからだ。いったん事故が起これば、風向き次第で他の近隣市町村も放射能に汚染されてしまうだろう。

9日の市町村長会議では、複数の首長から再稼働への慎重・反対意見がでる中、最後は村井知事が、女川

町と石巻市長との3者会談に委ねることを提案。最終判断の一任を強引にもぎ取った2日後、3人で会談した。「地元同意が得られた」と結論づけた。隣の東京電力・福島第一原発の事故後でさえ「脱原発に一気にかじを切るのは拙速」との見解を示していた村井知事。「再稼働ありき」のシナリオで粛々と事を進めたのは明白である。県議会でも、与党派議員たちが、原発の安全性を懸念する意見に真摯に向き合い、議論を深めることは最後までなかった。

一方、地元が要望する避難道路整備はまだ確約されぬまま。拙速に判断を下した村井知事の責任は重い。